

# 多治見産

# クール舗装

# マレーシアへ

## 「熱帯で商機つかむ」

夏場に道路の表面温度を下げる塗装をした「クールアイランド舗装」の実証実験に取り組んでいる「日本一暑い」多治見市。この技術を開発した東濃建設業協同組合(多治見市)が、マレーシアでも実証実験に取り組むことになった。

### 来月、実証実験

組合は9月12日、マレーシア工科大と技術提携の調印をした。白色系のタイル廃材を舗装道路の表面に約3ミリの厚さで張り付けて太陽光を反射させる仕組みのクールアイランド舗装を、同大があるジョホールバル市などの駐車場3区画(約38平方メートル)で、組合が11月上旬に施工する。同大が表面温度の変化などを測定し、その

効果を検証する。組合によると、同大のフアデル准教授と大学院生2人が10月、実証実験が進んでいる多治見市のクールアイランド舗装の視察に訪れるなど、関心は高いという。前田重宏理事長は「熱帯のマレーシアで実績を積み、新たなビジネスチャンスをつかみたい」と意気込む。マレーシアとの橋渡しをしたのは、同大の岩尾憲三

教授(62)。名古屋工業大教授時代に提唱した太陽熱放射都市冷却理論がきっかけになって、産学連携でクールアイランド舗装が開発された。

今回は、岩尾教授がマレーシア工科大の講義の中でクールアイランド舗装を紹介したことが提携につながったという。フアデル准教授は今年11日、岩尾教授とともに多治見市役所の古川雅典市長を表敬訪問。古川市長が「日本一暑い多治見で考案された技術で、省エネに取り組んでほしい」と話すと、フアデル准教授は「熱帯のマレーシアにとって、非常に

役に立つ舗装技術だと思う」と話した。組合によると、多治見でのクールアイランド舗装の実験によって、「夏場の道路表面の温度は5度近く下がる」という結果が出ているという。前田理事長は「今回の実証実験を足がかりに、世界の多くの熱帯地域にクールアイランド舗装を広げていきたい」と期待を膨らませている。

(連勝一郎)



①実証実験を行う駐車場を事前調査する東濃建設業協同組合のメンバー(左)マレーシア、同組合提供  
②古川市長(右)に実験の説明をするマレーシア工科大の岩尾憲三教授(中央)ら(多治見市役所)

